

場所 埼玉県大里郡寄居町

面積 27.2ha

活動目的 工場建設による影響の回避低減を図るため、生物多様性に配慮した緑地で「里山管理」を実施し、周辺緑地間の連続性を確保するなど、地域経済と生物多様性の保全の両方に貢献するとともに、地元自治体と協働して、水田ビオトープ等を環境学習の場として活用し、社員や地域住民の生物多様性理解促進に貢献することを目的としている。

サイト概要 本サイトは、埼玉県寄居町大字富田に位置する工場敷地（約100ha）内に、地域生態系の保全を目的に約27haの緑地の維持管理を行っている場所である。工場建設前から現存するコナラ-クヌギ林、スギ・ヒノキ植林、アカマツ林、モウソウチク林等を残置し、これらの林床の維持管理を行うとともに、谷戸の湿地環境を保全しつつ、水系に配慮したビオトープの創出をはかり、希少な動植物種の生息生育環境として維持管理を続けている。また、竹林やビオトープを活用して、ため池や水路、水田を整備し、従業員や地域住民が自然環境に触れる機会と空間を提供している。

HONDA
The Power of Dreams



- 土地利用の変遷** 工場建設前は、谷戸の湿地と水路、斜面林からなる、本地域に典型的な里山環境が存在し、豊かな動植物相や生態系が確認された一方で、既に都市計画区域への編入後時間が経過しており、地権者による雑木林や水田、ため池、水路などの里山管理は停止されていた。埼玉県環境アセスメント手続きを経て、森林や谷戸の湿地環境を残しつつ、地域在来種を用いた樹林造成や湿地ビオトープ、水路整備などを行ってきた。現在も地域生態系を構成する動植物種の生息生育環境を保全するため、その維持管理作業を継続し、里山環境が維持されている。
- サイト周辺の環境** 本サイトの南側金勝山周辺は県指定鳥獣保護区となっている。また、本サイトの東側はゴルフ場と男衾自然公園が位置している。
- アピールポイント** 工場建設による影響の回避低減を図るため、敷地の30%近くを生物多様性に配慮した緑地として保全創出、さらに建設前には停止されていた「里山管理」を企業として実施することで、地域経済と生物多様性の保全の両方に貢献している。敷地の周縁部を残置森林、造成森林、ビオトープで繋ぎ、周辺緑地との連続性を確保、動物の移動経路を確保している。地元自治体等と協働して、水田ビオトープ等を環境学習の場として活用し、社員や地域住民の生物多様性理解促進に貢献している。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

工場建設前から現存するコナラ-クヌギ林、スギ・ヒノキ植林、アカマツ林、モウソウチク林等の残置森林と、谷戸の湿地環境を保全しつつ、水系に配慮して創出したビオトープに、湿地、水路、ため池、水田環境等を保全及び整備し、地域生態系の保全上重要な里山環境の要素を維持している。

【主な植生】

樹林環境：コナラ群落、アカマツ群落、モウソウチク植林、スギ・ヒノキ植林

湿生草地：ミゾソバ群落、ヨシ群落、ヒメガマ群落

乾生草地：ススキ群落

【確認された主な動植物など】

2023年度秋季、冬季、早春季調査では、植物380種、哺乳類10種、鳥類44種、は虫類2種、両生類4種、昆虫類161種、魚類1種、底生動物57種を確認した。里山環境を代表する主な種は以下のとおりである。

【植物】コナラ、クヌギ、ヤマザクラ、アカマツ、アラカシ、モウソウチク、ヒサカキ、リョウブ、タチツボスミレ、ヤマユリ、ミゾソバ、サジオモダカ、ミゾコウジュ、ススキ、オオヒキヨモギ、ヤマハハコグサなど

【動物】カヤネズミ、アナグマ、タヌキ、キツネ、イノシシ、ニホンジカ、オオタカ、ウグイス、コジュケイ、モズ、ルリビタキ、イカル、アキアカネ、コバネイナゴ、ハラオカメコオロギ、オオムラサキ、ツマグロヒョウモン、クロコノマチョウ、マメゲンゴロウ、センチコガネ、ナナホシテントウ など



写真の説明：林床管理を実施したコナラ-クヌギ林



写真の説明：水路を浚渫し、剪定枝による粗朶柵工で、泥土の流入を抑制

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

コナラ-クヌギ林、スギ・ヒノキ林、アカマツ林、モウソウチク林などの樹林について剪定、伐採、林床管理等を実施するとともに、湿地環境についても水田管理（田おこし、代掻き等）、水路、ため池、調整池の草刈り、浚渫等を行い、地下水涵養、下流側水田への水の供給、雨水流抑制機能を保全している。また、水田ビオトープやモウソウチク林等を活用したイベントを開催し、生物多様性の普及啓発の場としている。

【主な植生】

樹林環境：コナラ群落、アカマツ群落、モウソウチク植林、スギ・ヒノキ植林

湿生草地：ミゾソバ群落、ヨシ群落、ヒメガマ群落

乾生草地：ススキ群落

【確認された主な動植物など】

2023年度秋季、冬季、早春季調査では、植物380種、哺乳類10種、鳥類44種、は虫類2種、両生類4種、昆虫類161種、魚類1種、底生動物57種を確認した。里山環境を代表する主な種は以下のとおりである。

【植物】コナラ、クヌギ、ヤマザクラ、アカマツ、アラカシ、モウソウチク、ヒサカキ、リョウブ、タチツボスミレ、ヤマユリ、ミゾソバ、サジオモダカ、ミゾコウジュ、ススキ、オオヒキヨモギ、ヤマハハコグサなど

【動物】カヤネズミ、アナグマ、タヌキ、キツネ、イノシシ、ニホンジカ、オオタカ、ウグイス、コジュケイ、モズ、ルリビタキ、イカル、アキアカネ、コバネイナゴ、ハラオカメコオロギ、オオムラサキ、ツマグロヒョウモン、クロコノマチョウ、マメゲンゴロウ、センチコガネ、ナナホシテントウ など



写真の説明：希少な水生昆虫などが生息する4号調整池



写真の説明：水田ビオトープを活用したイベント風景

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

工場建設前から現存するコナラ-クヌギ林、スギ・ヒノキ植林、アカマツ林、モウソウチク林等の残置森林と、谷戸の湿地、水路、ため池、水田環境、調整池等が連続的に存在しており、環境省レッドリスト2020または埼玉県レッドリストに掲載された希少な動植物として、希少な動植物の生息生育環境を保全している。

【確認された希少種】

・環境省レッドリストまたは埼玉県レッドデータブックに掲載された希少種として、2023年度調査では昆虫類15種、魚類1種、鳥類5種、両生類4種、は虫類2種、植物14種が確認されている。

生物多様性の価値

価値（7）分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場

【場の概況】

東側ビオトープの上流部から下流部にかけて、斜面林からのしみだし水を起源とする水系を保全（水路の浚渫等）しており、このような環境を好む魚類の生息が工場建設前から継続して確認されている。

【確認された分布限定種、特異な環境へ依存する種】

小河川の源流付近や湧水が残り、サワガニの生息や、水生植物が自生するような水域に生息する淡水魚1種が確認されている。



写真の説明：生息環境となっている水路

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

本サイトの南西側に埼玉県指定鳥獣保護区（小川げんきプラザ：43ha）が位置し、本サイトの残置森林は周辺の緑地との連続性・連結性を高める機能を有している。

【主な植生】

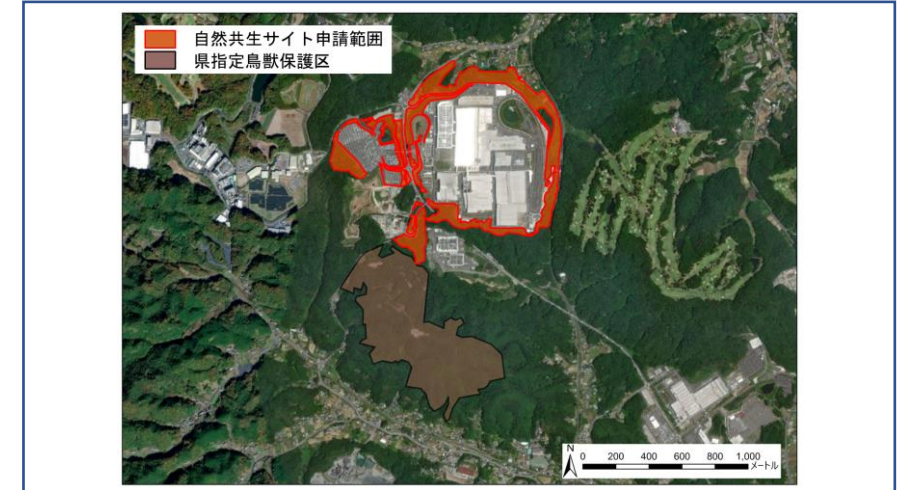
当該鳥獣保護区の現存植生は環境省の環境アセスメントデータベース（EADAS）によると、コナラ-クリ群集、ヤマツツジ-アカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、アラカシ群落、イロハモミジ-ケヤキ群集、竹林などで構成されている。
当該鳥獣保護区に接する本サイトの敷地は、スギ・ヒノキ植林、コナラ-クヌギ林などとなっている。

【隣接・接続する保護地域等】

埼玉県指定鳥獣保護区（小川げんきプラザ：43ha）

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

本サイトの南西側樹林地は既存樹林を残置したもので、弊社埼玉製作所完成車工場や国道254号線、東武東上線による人為的な影響を緩衝する樹林地となっている。また、本サイト内の南側樹林地や西側ビオトープは、アナグマ、イノシシ、ニホンジカなどの痕跡があり、当該鳥獣保護区から本サイト北側樹林地や、東側に位置するゴルフ場、男衾自然公園等の緑地への移動経路（連続性・連結性の機能）として機能していると考えられる。



写真の説明：本サイトと県指定鳥獣保護区の位置関係
出典：『鳥獣保護区等位置図(ハンターマップ)』（埼玉県HP、2024年2月26日閲覧）



写真の説明：南側残置森林内のけものみち

サイトの活動計画・モニタリング計画

| 活動計画の内容 | モニタリング計画の内容 |
|---|---|
| <p>【緑地維持管理計画】 計画地内をビオトープ（2区分）、残置森林（4区分）、造成森林、調整池等に区分し、今後5年間の緑地管理方針と内容を定めている。</p> <p>【自然環境保全管理】 保全目標種としている動植物種については、毎年個体数や生育状況の確認調査を実施するとともにビオトープや樹林地の生息生育環境の順応的管理を実施する。また、アライグマ、アメリカザリガニ、ウシガエル等の外来種の防除についても実施する。</p> <p>【文化的サービス 活用計画】 2024年度は「水田耕作」「桜イベント」「ビオトープガイドツアー」「ビオトープ周りの整備(歩道や看板の新規設備及び修復)」「従業員/一般への周知活動」について実施する計画がある。2025年度以降は、これらの活動を継続するとともに「ビオトープの一般開放（一部）」や「従業員によるモニタリング活動」などより発展的な企画を検討している。</p> | <p>【モニタリング対象】 【全種調査】：動植物種全種 【保全目標種調査】：保全目標としている動植物種</p> <p>【モニタリング場所】 【全種調査】：自然共生サイト及びその周辺 【保全目標種調査】：東側ビオトープ、西側ビオトープ及び残置森林</p> <p>【モニタリング手法】 【全種調査】：見つけ採り調査、任意採集、ラインセンサス調査、トラップ調査（ベイトトラップ調査、ライトトラップ調査）等 【保全目標種調査】：赤外線カメラ、目視調査、見つけ採り調査、任意採集 等</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 【全種調査】：5年に1回実施（2023～2024年度、保全管理を実施し2029年度に次回実施予定）、通年6季（早春季、春季、初夏季、夏季、秋季、冬季） 【保全目標種調査】：毎年実施、・通年3季(春季、夏季、秋季)</p> <p>【モニタリング実施体制】 ・本田技研工業株式会社 埼玉製作所 完成車工場：所長・環境総合責任者・施設管理課 本社・事業部：環境企画部・グリーンファクトリー推進部署 ・有識者 ・専門業者</p> |